

臨床研究に関する情報公開

「当科における pTS1 膵癌切除例の検討」へのご協力をお願い

当院の研究責任者

外科 田端正己

他の研究機関および各施設の研究責任者

なし

研究の対象

2012年1月～松阪中央総合病院で浸潤性膵管癌に対して切除が行われ、このうち腫瘍径2cm以下のpTS1膵癌であった方

研究目的・方法

膵癌は消化器癌のなかで最も難治性であり、日本膵臓学会の膵癌登録報告によると、その5年生存率は7.9%に過ぎません。一方、最大径2cm以下のいわゆるpTS1膵癌の5年生存率は膵頭部で29%、膵体尾部では33.9%であり、このうち最大径2cm以下で(pTS1膵癌)、かつ膵内に限局し転移を伴わない症例(膵癌取扱い規約 StageI)に限ると5年生存率は54.6%とようやく50%を超えますが、pTS1膵癌のうちStageI症例はわずか15%に過ぎません。すなわち膵癌の予後を改善するためには、pTS1膵癌のなかでも膵内に限局した小膵癌レベルでの発見および手術が必要です。そこで、当科で切除したpTS1膵癌の臨床的特徴や治療成績を後方視的に解析し、pTS1膵癌の診断・治療上の問題点を検討するのが本研究の目的です。

研究に用いる試料・情報の種類

検査所見やカルテ記載、病理組織所見等の診療情報

外部への試料・情報の提供

ありません

個人情報の取扱い

研究に使用する情報から個人を特定できるものは削除します。学会および論文発表において対象者を特定できる個人情報は一切使用しません。

研究資金源・利益相反

ありません

お問い合わせ先

0598-21-5252 田端正己